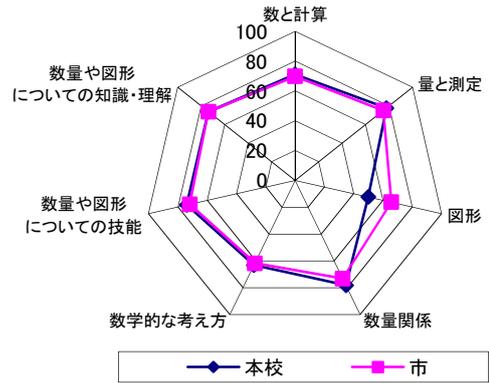


宇都宮市立海道小学校 第3学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と計算	71.1	69.8
	量と測定	77.7	75.2
	図形	50.0	65.7
	数量関係	78.1	73.1
観点別	数学的な考え方	63.1	61.7
	数量や図形についての技能	73.9	72.0
	数量や図形についての知識・理解	73.8	73.8



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○ 平均正答率は、市の平均より1.3%と高い。計算の問題に対しては、80%以上の正答率であり、しっかり定着していることが分かる。しかし、大きい数の問題となると50%程度と定着が十分と言えない。	繰り返し計算ストレッチ的な学習を継続して行い、計算力を高める。 また、答えの見積もりを立ててから計算したり、計算後の見直しをしたりすることを習慣化させる。 大きな数の指導の際に、位取りをしっかりと意識させ、指導を繰り返し行っていく。
量と測定	○ 平均正答率は、市の平均より2.5%と高いが、時刻と時間や重さの単位の問題に関しては、市の平均よりもやや下回っている。	時刻や時間は、日常生活と関連付けながら感覚を身につけさせる。 かさや長さは、単位の関係を確認したり、具体物を使って量感覚を身につけさせたりすることで、さらなる定着を図る。
図形	○ 平均正答率は、市の平均よりも15.7%低く、4領域の中で唯一市の平均を下回っている。箱の形の知識についての定着が十分でない。	四角形の図形の特徴をとらえさせ、特徴を方眼紙上で作図をするなど確認をする。具体物を使うことで、視覚的にも特徴をとらえさせ、定着を図る。
数量関係	○ 平均正答率は、市の平均よりも5%高い。棒グラフの読み取りは100%の正答率であり、しっかり定着している。	「□を使った式」においては、定着を図れるように取り上げる問題などを工夫しながら個別に支援していく。 また、グラフに関しては算数の時間だけでなく、社会や理科の教科や生活の中で算数の知識を使いながら、更なる定着を図っていく。